

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：34301
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010 ～ 2012
 課題番号：22520083
 研究課題名（和文） 日本における西洋哲学の初期受容—清沢満之の東京大学時代未公開ノートの調査・分析—
 研究課題名（英文） The early stages of the reception of Western philosophy in Japan: An investigation of Kiyozawa's unpublished notes on Fenollosa's philosophy lectures at Tokyo University in 1884.
 研究代表者
 池上 哲司（IKEGAMI TETSUJI）
 大谷大学・文学部・教授
 研究者番号：60121521

研究成果の概要（和文）：清沢満之の東京大学時代未公開ノート解読を通して、西洋哲学が明治期の日本にどのような形で受容されたかを明らかにしようとした。フェノロサが行った哲学関係の授業についての英文聴講ノートの内容を調査・分析していく過程で、満之と同年入学の高嶺三吉によるフェノロサ講義のノートが発見された。そこで、フェノロサによる複数の哲学関係授業の時期と内容を確定するために、清沢および高嶺の聴講ノートを翻刻・翻訳し出版した。

研究成果の概要（英文）：By investigating Kiyozawa Manshi's notes on Ernest Fenollosa's philosophy lectures at Tokyo University, we tried to make clear how Western philosophy was received in modern Japan during the Meiji era. In the process of working on Kiyozawa's notes we happened to learn that Takamine Sankichi's valuable notes on Fenollosa's philosophy lectures are held in Kanazawa University Library. Takamine and Kiyozawa entered Tokyo University in the same year (1883). Their notes are worth comparing and collating. To provide important materials for elucidating the whole content and chronology of Fenollosa's so far unknown philosophy lectures we reproduced, translated and published a relevant part of the original English text of Kiyozawa's and Takamine's notes.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：東洋・日本思想史、フェノロサ

1. 研究開始当初の背景

幕末から明治期にかけてもたらされた西洋哲学思想の受容形態としては三つの形態が考えられる。

- (1) 輸入された書物を媒体とするもの。
- (2) 西欧へ留学した日本人を媒体とするもの。
- (3) 西欧から日本に入国した西欧人を媒体とするもの、すなわち、主として日本の近代化過程で明治政府によって雇用された東京大学の外国人教師たちを通してのもの。

これまで(1)(2)の形態での受容については研究がなされてきたが、(3)の形態での日本における西洋哲学思想の受容の実態は、その講義資料の不備ということもあってほとんど手つかずの状態であった。本研究は、この部分に光を当てようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 清沢満之の遺稿中に発見された東京大学在学時の哲学関係講義録の全体を翻刻してフェノロサを中心とする東京大学の外国人哲学教授たちの講義内容を公開する。

(2) この作業を通じて日本における最初の哲学思想受容過程の一側面を解明する。

3. 研究の方法

(1) 第一次作業(調査編集作業)：講義録の講義がいつの、どの外国人哲学教師によるものなのかを周辺資料を調査して明確にしたうえで講義録を編集する。

①資料調査としては、金沢大学附属図書館、東京大学総合図書館、早稲田大学演劇博物館、国立国会図書館に出張した。まず金沢大学附属図書館において、清沢以外の筆記者によるフェノロサ講義録としては、これまで学会にその存在を知られていなかった「高嶺三吉遺稿」を初めてデジタルデータ化し、分析に着手した。早稲田大学演劇博物館では「坪内逍遙手書きノートブック」の一部をデジタルデータ化した。国立国会図書館憲政資料室では「阪谷芳郎関係文書」を入手し、これまで阪谷筆記のものとしては報告のなかった社会学講義のノートが含まれることを確認した。外国人哲学教師関係資料は、東京大学総合図書館所蔵の資料を収集した。

②編集作業としては、市島謙吉の「フェノロサ哲学講義」および清沢の講義録の編集にも着手した。

③以上の作業と並行して、以下のような外部講師を招いてフェノロサの講義録についての新たな情報を確認した。2010年12月には秋山ひさ講師(アーネスト・F・フェノロサ/金井延筆記『フェノロサ社会学講義』神戸女学院大学研究所、1982年、の編者)、2011年2月には山口静一講師(『フェノロサ』上

下、三省堂、の著者)、2012年2月には三浦節夫講師(東洋大学井上円了記念学術センター専任研究員・教授)をお迎えした。

(2) 第二次作業(思想分析作業)：第一次作業を終えた講義録に、①フェノロサを中心とする外国人哲学教師の講義が思想的にいかなるものかを分析し、②そうした西洋哲学思想が浄土真宗の僧侶であり哲学研究者でもあった清沢によってどのように受容されたかを分析する。

第二次作業を進めるにあたって最大の問題は、講義録の講義が誰によってなされたものなのか、さらにその講義がいつなされたかという点であった。清沢ノートの内容からしてノート間の順番はある程度推定できはした。しかし、フェノロサの名前が記されているノートは別として、それ以外のはフェノロサによる講義であることの決定的な確証が得られなかった。というのも、清沢が受講していた時期の『東京大学年報』が欠落しているためフェノロサの講義内容を確認することができないからである。

そこで、清沢と同学年に入学した高嶺三吉のノート(筆記時期がある程度記されている)を参考にすることにした。清沢ノートと高嶺ノートを比較し、内容の一致する部分を軸として清沢ノートの筆記時期を推定しようというわけである。たしかに、これは回り道ではあるが、編集作業と思想内容分析のためには必要不可欠な回り道であると判断して、清沢ノートと高嶺ノートの対応すると思われる部分を翻刻し、さらに翻訳する努力に集中した。

4. 研究成果

(1) 第一次作業に関しては、西尾浩二「明治前期の東京大学外国人哲学教師の資料調査 ―日本における西洋哲学の初期受容に関する調査・分析のために―」という成果をえた。これによって、資料欠落部分に対応する時期を除いて、東京大学における外国人哲学教師の前後関係および講義内容の概要をほぼ明らかにすることができた。

(2) 第二次作業に関しては、清沢と高嶺の聴講ノートを翻刻・翻訳した『フェノロサ「哲学史」講義』を出版した。これまで東大時代の学生たちの回想等でしか知られていなかった、フェノロサが行った哲学関係授業の内容がその一部とはいえ具体的に、かつ読みやすい形で提供されたことになる。これを基盤として、フェノロサの講義と伝教者であり哲学研究者であった清沢の思想との厳密な比較研究、影響関係の確定に関わる研究も現在継続中である。

今後は、研究課題名は違えども、範囲を拡大した形でフェノロサを中心に他の外国人

哲学教師の講義ノートを逐次翻刻・翻訳していくことを予定している。これを通してこれまでほとんど知られていなかった明治初期の外国人教師を通じての哲学思想受容の全貌がより一層明らかになるはずである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 藤田正勝、比較思想の可能性と意義、比較思想研究、査読無、第 38 号、2012、14-21
- ② 藤田正勝、日本如何接受「哲学」、日本問題研究、査読無、第 26 巻第 1 期、2012、6-12
- ③ 竹花洋佑、田辺元の思想形成と西田の『永遠の今』—微分から瞬間へ—、日本の哲学、査読有、第 13 号、2012、102-127
- ④ 村山保史、近代真宗仏教者の犠牲観(一)—多田鼎と暁鳥敏を中心として—、思想史研究、査読無、第 15 号、2012、88-100
- ⑤ 竹花洋佑、身体と種—西田哲学と田辺哲学、藤田正勝編『「善の研究」の百年—世界へ／世界から』、査読無、2012、199-217
- ⑥ 竹花洋佑、「種の論理」の生成と構造—媒介としての生—、思想、査読無、1053 号、2012、261-280
- ⑦ 西尾浩二、「明治前期の東京大学外国人哲学教師の資料調査—日本における西洋哲学の初期受容に関する調査・分析のために—」、真宗総合研究所研究紀要、査読無、第 29 号、2012、59-120
- ⑧ 村山保史、金子大栄「私の真宗学」の翻刻と解説(一) 解説編、真宗総合研究所研究紀要、査読無、第 29 号、2012、23-58
- ⑨ 村山保史、曾我量深の象徴世界観、哲學論集、査読有、第 58 号、2012、24-41
- ⑩ 村山保史、金子大栄と西洋哲学—「観念の浄土」をめぐる—、比較思想研究、査読有、第 37 号、2011、110-118

[学会発表] (計 7 件)

- ① 竹花洋佑、Logic and Life -Tanabe's Theory of "World Scheme" and Miki's "Logic of the Imagination", International Conference: Japanese

Philosophy as an Academic Discipline, 2011.11.12, The Chinese University of Hong Kong (China)

- ② 村山保史、近代真宗仏教者の犠牲観—多田鼎と暁鳥敏を中心として—、H23 年度高橋科研第 1 回研究会、2011.09.08、東京大学
- ③ 村山保史、曾我量深の象徴世界観、日本宗教学会第 69 回学術大会、2011.09.04、関西学院大学
- ④ 村山保史、Genderimplikationen in Symbolisierungen des Göttlichen in buddhistischen Traditionen in Ostasien, 7th International Rudolf-Otto-Symposium, 2011.05.14, Marburg Universität (Germany)
- ⑤ 村山保史、鈴木大拙の「大地」概念、日本宗教学会、2010.09.05、東洋大学
- ⑥ 村山保史、金子大栄と西洋哲学—「観念の浄土」をめぐる—、比較思想学会、2010.06.19、武蔵野大学
- ⑦ 村山保史、State and Religion in the Thought of Daisetsu Suzuki, Colloque: Identité nationale et religion en France et au Japan, 2010.05.05, Ecole Pratique des Hautes Etudes-Paris Sorbonne (France)

[図書] (計 1 件)

池上哲司、朴一功、竹花洋佑、西尾浩二、フェノロサ「哲学史」講義、2013、251

[その他]

ホームページ等

<http://www2.otani.ac.jp/~manshi/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池上 哲司 (IKEGAMI TETSUJI)

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：60121521

(2) 研究分担者

朴 一功 (PARK ILGONG)

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：50238242

村山保史(MURAYAMA YASUSHI)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：70310646

加来雄之(KAKU TAKESHI)
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：10214264

藤田正勝(FUJITA MASAKATSU)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：90165390

(3)連携研究者

門脇 健(KADOWAKI KEN)
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：30204522

研究者番号：30204522
西尾浩二(NISHIO KOJI)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：20510225

竹花洋佑(TAKEHANA YOSUKE)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：60549533